



三春中学校だより

第9号

発行日 平成30年 5月25日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【『ごきげん』に、しっかり食べていますか？ ～スポーツドクターからのメッセージ～】

校舎内を巡回していると、家庭科室前の掲示物に、気になる記事を見つけました。田村支部中体連総合大会は目前です。その他にも、さまざまな不安や悩みを抱えやすいのが中学生の時期です。『思春期』という難しい時期を健康・健全に乗り切るためには、『体力』が必要です。その『体力』は、『心の健康』にも直結しています。この時期、『ごきげんに、しっかり食べて』、心身共に健康で過ごしましょう。

掲示物にあった [スポーツドクター 辻秀一先生によれば]

人が元気であるには、『ごきげんな心』と『食事』が大切です。

では、人はなぜ『食事』をするのでしょうか。その目的は、**エネルギー源の補給**で、人間はエネルギーがなくなると動けなくなります。このエネルギーになるのが、**炭水化物や脂肪**です。

また、体は食べ物でできているので、添加物の多い食品ばかり食べていると体が痛んでしまいます。体の材料となるのは、**タンパク質**です。

他に、**鉄分**は血液をつくり、**カルシウム**は骨をつくれます。もちろん、体の三分の二は水なので、**水分補給**も『食事』の大切な目的です。

さらに、元気であるための調整役である**ビタミン**の補給も欠かせません。ビタミンは野菜に含まれ、野菜を食べると元気になります。

最後に、『食事』は**楽しく食べる**ことが大切です。家族などと一緒に、『ごきげんに、しっかり食べる』ことは、栄養の吸収率アップにつながり、この楽しい時間が、生活を明るく、元気にしてくれます。

さまざまな状況の中で、子どもたちは生活していますが、『食事』の大切さは、忙しさの中で見失われがちです。そんなときだからこそ、どうぞ、子どもたちに、『ごきげん』な食事を、『楽しく』、『しっかり』と食べさせてあげたいものです。



【そこに人がいて、懸命に命と向き合っていました！ ～第3学年社会科歴史講話～】

5月24日(木)、講師に、衣山武秀先生をお迎えし、第3学年社会科歴史講話をお聞きしました。講師の衣山先生は、フィリピン生まれで、元教員をなされていた84歳の先生でした。穏やかな語り口で、ご自身の戦争体験をとととと語って下さいました。

かつて、太平洋戦争の波がフィリピン、ミンダナオ島の生活の場にまで押し寄せ、苦しい体験の中から、生きることの大切さ、生きていく上で大切なものは何かということを訴えられました。以下にその概要をご紹介します。

私はフィリピンに生まれました。当時、フィリピンには25,000人の日本人が在住していました。

飛行機がいつになくたくさん飛び交うようになった、小学校1年生のある日、担任の先生から、「すぐ帰りなさい。」と言われました。戦争が始まったのです。その後、学校が避難所となり、たくさんの家族がそこで避難生活を送りました。避難生活は1ヶ月間に及び、校庭には、軍隊、トラック、戦車などと共に、縛られたフィリピン人も目にしました。当時、フィリピンはアメリカの統治下に

あり、日本とフィリピンの軍隊の戦いの構図でした。

学校も、日に日に、戦争色が濃くなり、運動会も騎馬戦など、いわば、戦争ごっこの様を呈していました。「大きくなったら？」の問いには、「兵隊さん。」が男子の正解の答え。毎日、1,500メートルの飛行場づくりにかり出されていました。

アメリカの飛行機が頻繁に飛来するようになり、日本の高射砲はそこまで届かず、それでも日本は勝つと信じ込んでいました。そんな中であって、私の家に間借りしていた軍人さんは、戦いのない日には、お酒を飲んで、家族のことを話す、優しい人たちでした。

5年生になり、遊びから帰ると、家では、荷物がまとめられ、水牛にひかせてジャングルに逃げる準備をしていました。アメリカ軍がやってくるので、逃げなくてはならなくなりました。40ぐらいの家族が、昼間は飛行機の爆撃や機銃掃射の危険があるため、夕方から夜にかけての避難でした。ヒルに血を吸われ、煙が立ち上り敵に見つかるのを気にしながらのご飯炊きをしつつ、共にジャングルへと向かいました。2～3週間で持ってきた食料も尽き、ジャングルに生えたツルを食べたり、フィリピン人の作った畑の作物をとりにつらさになり命をつなぎましたが、中には、そのつらさに耐えきれなくなる人たちもいました。避難する家族には手榴弾が持たされていました。フィリピンでは、日本人が50万人近くが亡くなりましたが、その多くが餓死でした。

やがて、アメリカ軍に捕まり、ジャングルから出て、支給されたテントに寝泊まりしました。ドラム缶を半分に切って、アメリカからもらったご飯を炊いて食べました。「ご飯がいっぱい食べられる。」というのがいちばんの感想でした。

その後、船で日本に帰りました。船は広島に着き、原爆のあとを見て衝撃を受けました。それから、屋根のない貨物列車などを乗り継ぎ、福島県に戻ってきましたが、寒さのつらさ、食べ物を何とかしなければならぬこと、邪魔者扱いもされたことは、今でもつらい思い出です。

みなさん、フィリピンで、日本人は50万人亡くなりましたが、フィリピン人の死者は100万人の数に上っています。どう生きるか、世界で今何が問題かをしっかり考える力をもってください。インドでは、タクシーを身を挺して止め、お客さんを案内してもらったチップで生活したり、フィリピンでは、ゴミ捨て場をあさり、そこで得たものを売ったりして生活している子どもたちもいます。みんなが学校に通える世界をつくりたいと思います。そのためには、疑問を抱くこと、真実を見抜くこと、本物と偽物を見抜く力が必要です。



【交通事故等に十分ご注意ください。～車のかげからの飛び出し、駐車場での事故防止を！～】

本日、町の教育委員会より、交通事故防止に関するFAXが届きました。下校途中、小学生が車のかげから飛び出して、後続車に衝突されたという事故の注意喚起の連絡です。

本校では、スクールバス降車後の飛び出し事故が予想されます。これまでどおり、十分注意させたものです。また、車による送迎の際、ほとんどの送迎の車は駐車線に従い、飛び出し等に注意しながら、最徐行で進行して下さっています。今後とも、そのようにお願いしますと共に、お父さん、お母さん以外に送迎を依頼する場合でも、同様にお願いできますよう、ご確認方、どうぞよろしくお願いいたします。